

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4751380017		
法人名	社会福祉法人まつみ福祉会		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	沖縄県豊見城市字高嶺111番地		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 12月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしの良い高台に位置し、広い庭があり、コロナ禍でも施設の中だけでなく外にでて日光浴や体操をしたり、散歩をしたりできる環境にあり、家庭的な雰囲気である。地域との交流は行っていないが、隣接する保育園の子供たちの遊ぶ姿を眺めたり、豊崎の海を眺めたりと落ち着いた環境にある。コロナ禍のため、面会制限があるが居室の窓からご家族や知人との対面ができる環境にあるため、いつでも面会が行える。ご家族は対面で入居者様の様子や話ができるため喜ばれている。コロナ禍でも楽しく過ごせるように器具を使用しての運動や手作りの絵合わせパズルで活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は敷地内に介護老人保健施設、障害者支援施設、保育施設があり、介護老人保健施設とは医療・リハビリとの相談・連携、障害者支援施設と保育施設においては世代間交流など多様な関わりが可能な状態となっている。コロナ禍においては一定の感染対策が講じられており、制限を行っているが必要な相談・連携がとれる体制が物心両面で整えられている。事業所の玄関前は芝生スペースがあり、目の前には広大な景色が広がりや山と海の自然が視覚や触覚、聴覚をとって感覚器から情報を楽しめる好立地となっている。居室スペースからも同様の眺望が望め、感覚器からの刺激が得られやすい環境が整っている。法人の関連施設が多く異動も定期的に行われている中では職員間の意思統一、理念の共有が課題となる中、職員間の理念の共有が徹底されている。どうやったら実践に繋がるのか、不適切なケアにならないよう、言葉づかいから職員間で気づきの声かけを行うようにしている点など、配慮を欠かさないための努力が細部にわたり見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の支援の中や会議、申し送り等、ホームとしてのケアの方法、方向性等を話し合い、ケアの統一を図る。	法人とは別にグループホーム独自の理念を掲げている。具体的な日々の実践では『一介護、一声』張り紙をトイレの壁に貼り付け、職員の意識付けの強化に取り組んでいる、また理念の書かれた紙を全職員が首からさげる名札の裏側に差し込んで、理念の具現化の工夫に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、気軽に買い物に出かける機会が減っているが、病院受診時や美容室に行くなど短時間ではあるが地域の顔なじみと場所へ出掛けている。	制限緩和を見越して、以前行っていた地域活動のオレンジカフェや隣接する保育施設の子ども達との交流再開を待ち望んで準備をしている。地域コミュニティFMに出演し、事業所の様子を伝えるなどの地域との接点も法人の活動として再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、気軽に見学者を受け入れることは出来ないが、豊見城市のラジオ番組に参加し事業所の様子を伝えている。実際にラジオを聞いて入居相談があり、入居につながったケースもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、開催が実施できず、文書や電話連絡を行い委員の方へ状況説明や助言、情報交換、ホームの運営やサービスの向上にも生かしている。	前年から開催が困難な状況から文書での代替開催を継続している。年6回の文書での報告書に加えて電話連絡を活用して委員一人一人と関係の継続に努めている。一方で会議メンバーの誰に文書を郵送したか、誰が文書を共有しているか、記録が残っていない点など文書管理の点で改善を望む。	事故報告の記載が漏れている。会議録に資料を配布した構成員の記載が残っておらず、資料配布と閲覧の状況が把握できないためさらなる記録の整備を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市町村窓口や広域連合に確認、相談しながら行っている。	コロナワクチン予防接種に関する情報を市町村窓口の担当者ややりとりするなど連携に努めている。具体的には、利用者は隣接する介護老人保健施設の医師にワクチン接種を実施してもらうこと、その際の手順について市町村の担当者と相談をしながら移動、接触場所など感染対策を講じて取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中や会議、申し送りの時などホームとしてのケアの方法、方向性を話し合い、ケアの統一を図っている。	身体的拘束等の適正化委員会を運営推進会議終了後に文書で代替開催として報告を行っている。グループホーム協会主催の身体拘束適正化に関するオンライン研修に参加して職員の知識・意欲の向上に務めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、虐待防止に関する理解し職員間でも報告会を開催し周知を図っている。グループホーム協会のWEB研修に参加している	高齢者虐待防止マニュアルを整備して年に2回以上の研修を実施している。グループホーム協会のオンライン研修にも参加して最新の情報を収集し、理念の『一人一人の人格を尊重し、自分らしさや誇りをもった人生が送れるように支援する』の実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、権利擁護に関する制度を理解し職員間でも報告会を開催し周知を図っている。WEB研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明、契約書を十分に説明し、入居者の重度化や状態の変化に事業所として「出来る事、出来ない事」を説明し理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、意見・要望を聞き取り、意見箱の設置と、話しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族からの意見・要望を表してもらうように努めている。又出された意見や要望は職員会議等で話し合い、改善、運営に活かしている。	以前は年2回家族会を実施して意見・要望の聞き取りを行う機会をつくっていたが、現在は受診の付き添いや電話でのやりとりで意見要望を吸い上げる工夫をしている。家族からは「コロナ感染対策」に関する心配毎が多くきかれた、利用者の健康状態についての関心が高いことから、より丁寧に情報提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で上がった意見、要望を部内会議に提案し、更に法人内の管理者会議に連動された体制となっている。日頃から職員の意見や要望を聞いたり、問いかけるよう努めている。実勢に職員から上がった施設内の環境改善にエアコンの取り付けが行われた。	利用者が日中長く時間を過ごすリビングの西日がまぶしくケアに支障がでるという意見を職員から挙げて、エアコンの設置が実現したり、畳間の張替えも実施し環境改善が行えている。職員間の意見は管理者、主任に発信しやすく、意見交換がしやすい雰囲気づくりへの配慮が行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推進や正職員への登用、ワークライフバランス等、職員の働きやすさ、やりがいにつながるよう職場環境の整備に努めている。人事考課制度を取り入れ向上心を持って働けるように努めている。	管理者、主任が主となり、職員の働きやすさ、心身の健康状態などへの配慮を行い、環境づくりを意識している。健康診断について日勤者は1回、夜勤者は年2回行っている。有給休暇を取得しやすいよう希望や予定を組み入れて実現させている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格保有状態や、研修への参加状況を把握し、適切な研修の機会を設けられるようにしている。研修案内など皆が情報を共有できるようにしている。WEB研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会連絡会に参加したり、他ホームと情報交換や施設見学を行い、サービスの質の向上に努めている。WEB会議などで情報交換を行っている。コロナ禍のため電話などでの情報交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様からこれまでの生活状況、不安や要望などの聞き把握に努めている。また、話しやすい雰囲気を作るように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所として、どのような支援や対応ができるのか、サービス導入の前にご家族やの不安、要望を話し合いながら関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所として「できること、出来ないこと」を説明し、ご本人様、ご家族様の要望を確認しながら、事業所のサービス内容につなげていけるようにしている。法人内の相談員会議に情報を提供し共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話の中や行動から得意なことや驚異のあることを引き出すように努めている。また、職員が一緒に行くことで喜びを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時、電話での問い合わせなど日常生活の様子や行動を細かく伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時等コロナ感染予防のため、短時間の外出を行っているが、そのときに馴染みの店に寄り寄りし、なじみの方やご家族との関係が途切れないようにしている。馴染みの方にははがきを送付し、近況を伝えている。	ご本人とご家族と相談、承認を経て年賀状、暑中お見舞いを恒例として、自筆で書ける部分をやらせなど馴染みの方への思いを形にする作業を行っている。また、ご家族からは差し入れの食材、みかん、柿、いんげんなどを頂くこともある。外出や面会の制限はあるものの関係性が途切れないよう工夫と配慮をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団活動や個別活動を通してご本人同士が支え合うことができるように努めている。また、職員と一緒に行動することで関係性がうまくいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた方でも支援方法など情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からご本人の生活歴や趣味、好きだったこと等を聞き取ったり、ご本人からの要望を聞いていたり。できる限りご本人の以降に添えるように努めている。	利用者個別の情報収集を本人及び家族から聞き取り、声に耳を傾けるよう配慮している。ある利用者は「朝にコーヒーを飲む」が日課だったり、別の利用者は「新聞を読む」など、以前からの習慣を把握して個別の対応をして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに聞き取りを行ったり、ケアマネから情報を得たり、これまでの生活を把握するようにしている。また、にゅうきよされてからもご家族の面漢字などに聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が状態の把握に努めている。きづきがあれば、管理日誌や申し送りなどで情報の共有を行っている。また、職員で判断できない場合には、看護師に相談し指示を仰いでいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員で話し合いを行い、それぞれの意見や要望などをもとに介護計画を作成している。	一か月に一回、評価の機会を持ち、利用者に担当職員をつけて担当制とし、介護計画の内容の周知と実践を行っている。担当はマンネリ化を防ぐために一年で交替している。現在ICT導入中のため入力と手書きを平行して記録の効率化を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の実施記録、特記事項、受診状況を記入し、情報の共有や介護計画、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて病院受診や救急搬送時、必要に応じて支援している。接触・嚥下・口腔ケアチームやセラピストへ相談し入居者様の状態に応じた相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員の方や入居者様のご家族などから、対応方法などのご意見をいただいている。行政への相談や指導を仰いでいる。定期的にFMとよみのラジオ番組に出演し、施設や入居者様の状況などをはなしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医を継続している。ご本人の心身の状況を定期受診時や臨時の受診時には、情報提供書で定時している。また、ご本人の様子や気になることを同行受診し主治医に相談している。	通常の受診については家族が対応している。状況が気になる際は受診時に同行したり、心身の状況を情報提供書にまとめて相談している。訪問診療を利用している入居者は現在いない。法人の老人保健施設が隣接しており、日常的に相互協力を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、入居者様の心身の状態の変化や医療面での相談、助言を得ている。又、ご家族や主治医への病状の報告、相談を行い、適切な受診が行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関を訪問したり、文章で情報を提供したり、情報交換に努めている。また、ご家族とも連携し、退院後のけあについて早い段階で話し合いを行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や、ご本人の意向を確認しながら、ご本人の状態を説明しながらカンファレンスを行い、確認するようにしている。	入居時や状態変化時などに終末期の対応についてカンファレンスを実施し、利用者・家族の意向を適宜確認している。事業所としての指針を整備し、職員への研修も実施している。法人内に老人保健施設や有料老人ホームがあり、ご本人、ご家族の意向を確認して状態に応じた連携を行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対策や検証をその都度行っている。急変時の対応については、看護師と連携しながら日々見直しを行っている。看護師の指導を受けながら対応の仕方の訓練を行っている。	法人内の老人保健施設は、廊下でつながっている。急変時や事故発生時の対策については協力体制が整備され、研修や訓練を合同で実施している。事故発生時には、報告書を作成し、職員ミーティングで報告と改善策の話し合いを行い周知を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に行っている。	豊見城市消防署と連携し、法人内の施設の協力を得て通報訓練や消防訓練、避難訓練を年2回行っている。法人内の感染対策委員会に参加し蔓延防止の指針の整備や研修を行っている。	昨年度は、コロナ禍の影響により計画していた防災訓練が中止になった。今年度は、昼夜対応で2回の訓練を実施した。高台にあり、周囲に遮るものがない立地環境のため、台風時の強風対策を入念に実施している。感染症対策については、法人内の研修に参加し、職員ミーティングで情報共有をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者M佐野気持ちを尊重し、思いや要望を出しやすいような声掛けを行っている。施設内やトイレ内に標語を掲示し、常に意識するようになっている。	「介護させて頂く前に、一介護、一声を行いましょう」という標語が作成されており、トイレ内に掲示している。排泄時のケアの際に、ケアを受ける利用者の気持ちを尊重することの意識付けを行っている。日常的にも標語を意識したケアを行うために、職員同士の声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを受け入れるよう行動を制止するのではなく、安全に気を付けながら付き添い対応を行っている。また、ご本人が選択できるような話し方に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や心身の状態に合わせて、活動を促したり、庭先での散歩を行い気分転換を図っている。ご家族へ電話をかけ話すことで安心していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面などの伊田氏並みやおしゃれに関して、個別に支援している。外出時にはおしゃれができるように支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様がキョウドウで可能な限り食事の準備を行っている。食事の準備が出来ない方に関しては、食器洗いやテーブル拭きなどそれぞれの役割を持っていただいている。	利用者は、テーブル拭きや食器洗い等、職員と共に可能な役割を担い一緒に準備を行っている。家族等からの差し入れを利用して、ヒラヤーチーやちんぴん等のおやつ作りを実施し、食事を楽しむ工夫を行っている。訪問歯科衛生士の指導の下、利用者の嚥下機能の状況をアセスメントし調理形態に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては毎回チェックしている。水分量に関しても水分の確認表を作成し、土の時間委どれくらい摂取していただくかの確認を行っている。確実に接種していただけるよう、見守り、声掛けを行っている。食事に関しては、食事形態をそれぞれにあったものに変更しながら、全量摂取していただけるよう支援している。できるだけ経口接種していただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には歯磨きの声掛けを行っている。できるだけ自力で行えるように視線氏、磨きの腰がないか確認している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、トイレ南内やトイレではいせつが行えるよう支援している。運動には失禁予防体操を取り入れている。	ウェブ上に公開されている動画を活用し、ボールやタオルを利用して失禁予防体操を行っている。入居時におむつを使用していた利用者が排泄チェック表等を活用したアセスメントにより、リハビリパンツへの変更が可能になった。利用者個々の排泄のパターンや習慣を把握し、可能な限りおむつの使用を減少するケアを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の適度な運動や水分、乳製品、sy供物背に多く含む食品を取り入れるなど、自然に排便が行えるよう支援している。毎朝、牛乳やヨーグルトを提供している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めず、出来るだけ希望にそうようにな支援をしている。拒否のある方に対して時間帯を変えたり、職員を変えるなどの対応を行っている。一人一人にあった支援を行っている。	入浴については、基本的に週2回を設定している。時間帯については、利用者の希望に応じている。1時間程度入浴する利用者については、職員が見守りながら支援を行っている。洗い場には滑り止めを用意し、事故防止を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間の把握や室温、明るさ、寝具など気持ちよく眠れるように支援している。一人一人の生活習慣にあった、静養を取り入れている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個別ファイルに整理し、職員が服薬内容が確認できるようにしている。内服の変更があったときには、申し送りや管理日誌に記載し確認ができるようにしている。	病院受診時に家族が薬を受け取り、事業所で預かる。その後の服薬支援についてマニュアルが作成されている。服薬内容の変更時には、全職員が確認できるように、管理日誌に記載し申し送り時にも報告を行っている。	マニュアルは作成され、日誌への記載申し送りの実施を行っているが、誤薬が確認された。マニュアルの見直しとわかりやすいフローチャートの作成等の工夫が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、テーブル拭き等職員と一緒にやりがいがあるような支援を行っている。また、職員が必ず「ありがとう」と声掛けを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるように散歩や庭先での体操、お茶会を行っている。	コロナ感染予防のため外出支援については、制限がある中、法人の広い敷地の奥まった場所の立地条件を活用し、日常的に敷地内での散歩を行っている。朝は、庭での体操を行い、その後おやつを用意したお茶会を開催し、利用者が外気に触れる機会を提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中には、財布に少額のお金が排いているので、定期的に確認作業を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が掛けられるように声掛けを行っている。又、ご家族から電話があったときにはご本人に買われるようにしている。難聴の方が多いので、職員が間に入り声掛けを行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な暖かさを感じられるよう、木製の家具などを用いている。落ち着けるような雰囲気作りや季節感を感じられるような飾りつけを行っている。	台所には、火神が設置され沖縄の行事を意識する工夫を行っている。線香は短くし、リスク管理を図っている。毎年、年末には干支の掲示物を作成し、1年間掲示をしている。現在は、来年用に寅の掲示物を作成中である。クリスマスの飾り物等も利用者と共に作成し、共有空間に飾り季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールと庭先にベンチやいすを置くことで一人でも他者とでもくつろげる居場所づくりを行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に合わせたベッドの位置や部屋の飾りなど、ご本人がゆったり過ごせるような環境づくりを行っている。入居者様には使い慣れたものを居室においている。	居室には、ベッド・タンス・カーテン・エアコン・洗面台を備え付けている。利用者は、それまで使用していた机・籐椅子・テレビ・電気スタンド等を持参し、居室に配置している。壁には、家族の写真や持参した絵、関連した新聞の切り抜き等を貼り、落ち着いた環境整備に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車いすの方でも移動ができるようになっている。また、ご本人の状態に合わせてテーブルや椅子の配置を行っている。共有する場所には、場所がわかるように名前を表示している。		

目標達成計画

作成日: 令和 4年 1月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	事故報告の記載がもれている。会議録に資料を配布した構成員の記載が残っておらず、資料配布と閲覧状況が把握できない。	会議録に配布資料や構成員の記載、閲覧状況を記載する。	会議録の見直しを行い、誰がみてもわかるように書式の変更を行う	1ヶ月
2	47	マニュアルは作成され、管理日誌への記載や申し送りの実施を行っているが、誤薬があり、マニュアルの見直しとわかりやすいフローチャートの作成等の工夫が必要。	服薬支援において、誤薬をなくすためのマニュアルの見直し、フローチャートの作成を行う	看護師を中心に介護職でもわかるようにマニュアルの見直し、フローチャートを作成する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。